



The Garden of Siloam

No 3, October 2015

シロアムの園

シロアムの園は、ケニアの障がいを持った子供たちひとりひとりのニーズにあった、質の高い教育や医療の提供を目指します。また、愛情のこもった安心できる環境を作ることを支援し、子供たちとその家族たちが持っているものを活かし、ひとりひとりが生きる喜びを感じることができるよう活動していきます。

弟子たちがイエスに尋ねた。「ラビ、この人が生れつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか、それとも両親ですか」。イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神のわざが、この人に現れるためである。」
(ヨハネによる福音書9:2-3)

*「シロアム」とは、イエスがこの盲人を癒された池の名前です。



スタッフ、お母さんや子供たち、ボランティアさんたちが、一生懸命働きました！

2015年7月、引っ越しをしました

1月から、キアンブ郡ンデンデル村に施設を構えておりましたが、敷地の色々な問題があり、急なことはありませんでしたが、7月に同じンデンデル村内で引っ越ししました。

これまで、車庫を使って行っていたリハビリサービスも、大きな居間を改築して行うようになり、もっと心地よい空間となりました。また、お庭も広くなり、子供たちが遊具で遊んだり走り回ったりできるようになりました。

この新しい家、2年以上誰も住んでおらず、かなり荒れ放題の状態でしたが、様々な改築を



シロアムの園第一号、サムエル君もがんばりましたよ。

を行い、また、シロアムの子供たち、お母さんたち、ボランティアさんたちが、一生懸命掃除をしてくれて、とっても素敵な施設となりました。シロアムのスタッフとお母さんたちが力を合わせ、素晴らしい仕事ことができました。

2015年10月、10人の子供たちで、グループセラピーを開始しました

2015年2月に第一号のお子さんをお迎えてから、ロコミで次々新しい子供たちが集まってきて、9月には登録されたおさんは、30名となりました。子供たちが増えれば増えるほど、他で教育を受けることができないお子さんたちに対する教育ということが祈りの大きな課題となってきました。お子さんたちもそのご家族も、週1-3回のリハビリをとても楽しみにしていますが、日常生活の中で社会との接点が少ない子供たちが、もっと他の子供たちや大人たちとの関係の中で育ってほしい、という思いが強くなっていったのです。

そんな中で、まずはグループセラピーから開始していくことになりました。参加することになったのは、色んな障がいをもっており、これまで学校に殆ど行ったことのない3歳から12歳のお子さんたち10名です。今まで、ご飯の前に手を洗ったことがなかった、順番を待ったことがなかったという子供たち。寝たきりで、お友達やお母さんと一緒に歌を楽しんだことがなかった子供たち。そんな子供たちが、他の子供や大人たちとの関係をどのように作って、どのように楽しんでいくのか、スタッフ一同、わくわくしています。ケニア人、日本人のボランティアさんも参加してくれています。

シロアムの園の中で、子供たちが、たくさんの愛と喜びを受け取り、たくさんの愛と喜びを人にあげることができる子供になるよう、心から願っています。



歌に合わせて、鈴のついた紐でつながるジェーンちゃん、ジェフ君、エンジェルちゃん、ジョシュ君。



グループ全体会でお歌と踊りを楽しんでいます。自分のお母さんが楽しそうなのを、うれしそうに眺め、一緒に楽しくなっているお子さんもたくさんいます。



トランポリンで一緒に遊ぶ、ルイス君、サイラス君、メシャック君、モーリンちゃん

「シロアムの園」の活動について

シロアムの園は、ケニアの教会である「コイノニア・ミニストリー」の一つの事業として、ケニアの障がい児やそのご家族にとって必要なこと、大切なことを、その人まるごと受け入れて、総合的なケアを行うことを目指します。



作業療法士パシリサとコミュニケーション訓練中のサイラス君

第一期（5年間）には、以下の活動を計画しています。

1. キリスト教信仰に基づく、障がい児のための医療・教育一体型の施設の設定と、サービスの提供

- 特別支援学校
- リハビリテーション外来
- 障がい児外来

2. 障がい児とその家族のためのネットワーク・収入向上活動

- 患者・患者家族の会の設立とその支援
- この会とケニア国内・外の同様の会の交流・連携促進
- 患者家族会に対する職業訓練
- 患者家族や本人による収入向上活動の支援

3. コミュニティにおけるアウトリーチ活動・啓蒙・教育活動

- コミュニティ内施設（教会・学校・医療施設など）を利用して、障がい児の診断やリハビリ・教育サービスを実施
- 教会やコミュニティ住民に対する障がいに関する教育、コミュニティ内でのケア・啓蒙活動
- 保健医療従事者、教師などに対する教育活動



作業療法に取り組むジョージ君

シロアムの園には、こんなパートナーがいます

AHOMS (Asian Heads of Mission Spouses Group, Kenya)

在ケニアのアジア諸国大使夫人の会が、5月に開催したチャリティーバザーから、ご寄附くださいました。庭のブランコやトランポリンなどの遊具、子供用の机といすなどの家具、子供が使えるようなトイレの改築などに使わせていただきました。



「飛んでけ！車いす」の会

日本で使われなくなった車いすを整備して、海外に届けるNPOです。http://tondeke.org

生まれつきの小頭症で、重度のクル病により体の変形が強くて、座位をとることができなかったジェーンちゃんは、いつも寝室のベッドで過ごしていましたが、この会のご寄附の車いすにうまく座れるようになって、居間でみんなと一緒に過ごすことができるようになりました。

おかげさまで、夏には日本において、教会・学校・医療施設・公共施設など、いろんなところで、シロアムの園のお話をさせていただく機会が与えられました。またその後も、お知り合いになった様々な教会・個人の方々から、多くのご支援をいただいております。ご協力いただいている皆様に、感謝申し上げます。

活動資金のご寄付

ゆうちょ銀行
口座名：「シロアムの園」を支える会
店番：019、預金種目：当座
口座番号：0665132
(00190-3-665132)
皆様の祈りのうちに覚えていただければ、と思います。

"The Garden of Siloam"

Koinonia Ministry
PO box 1261-00621, Nairobi
info@thegardenofsiloom.org
siloomgarden.info@gmail.com
代表者：公文和子
http://www.thegardenofsiloom.org
https://www.facebook.com/thegardenofsiloom.org.jp
https://www.facebook.com/thegardenofsiloom.org.eng

子供たちに人気の運転手、ジョセフよりご挨拶

僕の名前はジョセフで、運転手として働いています。僕は、青年期を通して、子供たちのために働くことに喜びを感じてきました。

僕が初めてシロアムの園がどんなことをしているかを聞いた時、神様が僕に願っていることは、ここ子供たちの面倒をみることによって、神様に仕えることであることを確信しました。ですから、初めて僕がここに呼ばれて、子供たちやご家族のために運転する仕事がある、と言われた時、僕にとっては、この仕事は色々な意味で神様から啓示されたことでした。

シロアムの子供たちは、とっても愉快で、僕を一日中笑わせてくれるような面白いことを言います。しゃべることができない子たちもいますが、体で表現して分かり合うことができ、この子供たちと一緒にいると、本当に幸せな気

持ちになります。僕は、この団体に来てからというもの、この子供たちによって僕自身が人生をポジティブに考えるようになったので、以前よりずっと幸せです。

この団体はコミュニティを助け、何よりもコミュニティや家族からすらもかえりみられない多くの子供たちが、この世の中には彼らを愛して心配してくれる人たちがいることに気付いてくれるようにがんばっているのです。神様がますますこの団体を祝福してくれるよう、お祈りしています。

